

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ相立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年6月20日 NO.33 (233)



?カミキリ (あれこれ調べましたが不明、分かる人は教えて下さい)

## だいしゅうごう カミキリムシ大集合



ルリボシカミキリ



クワカミキリ



ノコギリカミキリ

七小の学校ホーム  
ページで見てね!  
カラーで見ると  
とてもきれいだよ!



ゴマダラカミキリ

花ちゃん 「うわあー! いろいろなカミキリムシがいまね。」

オー君 「どれもこれも、みんな国立市で見られるカミキリムシなんだよ。」

花ちゃん 「へえー! すごいですね。」

モンタ博士 「ノコギリカミキリは、2年生のSくんがつかまえたそうなんだ。」

花ちゃん 「よーく見ると、どのカミキリムシも触覚が長いですね。」

モンタ博士 「ほほー。いいところに気がついたね。さすが花ちゃんだね。カミキリムシの名前はわからなくても、カミキリムシの仲間だと気がつくことが大切なのさ。」

オー君 「むずかしい言葉で『共通性』というんでしょ。それから、同じ仲間でも、それぞれちょっとずつ違っていて、それを『相違性』というんでしょ。」

モンタ博士 「そのとおりだね。植物や昆虫を観察する時、『共通性』と『相違性』に注意して観察するといいんだよ。」(平成25年度の国立てくてくの25・27を参照するといいでしょ。)

花ちゃん 「うわあー！<sup>おお</sup>大きなカエル！」  
オー君 「このカエルはね、3年生の  
Sくんがもってきてくれたんだ。」

花ちゃん 「<sup>なん</sup>何というカエルなの。」

オー君 「トノサマガエルでいいですね。  
モンタ博士！」

モンタ博士 「そのとおりだね。トノサマガエル  
だね。よくにたカエルで、

トウキョウダルマというのもいるんだけど、おなかのあたりに<sup>てんてん</sup>点々があまり  
ないから、トノサマガエルでいいね。」

花ちゃん 「へえー。カエルって、いろいろといるんですね。」

モンタ博士 「<sup>おな なかま</sup>同じ仲間で、ナゴヤダルマガエルというやつもいるんだよ。」

花ちゃん 「へえー。そうなんですか。それにしても<sup>おお</sup>大きなカエルですね。」

モンタ博士 「そうだね。アマガエルなどにくらべると大きいけど、もっと<sup>おお</sup>大きいアズマヒ  
キガエルや、さらにもっとでかいウシガエルなんていうのもいるんだよ。」

オー君 「<sup>し</sup>知ってる<sup>し</sup>知ってる。ウシガエルのオタマジャクシは、8cmくらいあるんで  
しょ。ぼくもつかまえてみたいな。」

モンタ博士 「モンタ博士のおうちの<sup>ちか</sup>近くにもいるよ。<sup>よる</sup>夜になると『ブオー・ブオー』と  
<sup>おお</sup>大きな<sup>こえ</sup>声でなくんだよ。<sup>こえ</sup>なき<sup>うし</sup>声<sup>うし</sup>が牛<sup>うし</sup>ににているので、それで、ウシガエルと  
いう<sup>なまえ</sup>名前<sup>なまえ</sup>になったのさ。」(国立てくてく2のNO.10を参照して下さい)。

花ちゃん 「大きなカエルなんでしょうね。」

モンタ博士 「そりゃ大きくて大きくて<sup>おどろ</sup>驚<sup>あみ</sup>き<sup>とき</sup>だったね。網<sup>あみ</sup>ですくった<sup>おも</sup>時にはとても重<sup>おも</sup>たくて、  
網<sup>あみ</sup>がこわれそうだったね。」

オー君 「どのくらい<sup>おお</sup>の大きさなのですか。」

モンタ博士 「そうだね。12~18cmくらいあるといわれているけどね、モンタ博士が  
つかまえたのは、20cmくらいあったかな。ザリガニまで<sup>た</sup>食<sup>た</sup>べてしまうそ  
うで、<sup>しぜん</sup>自然<sup>せいだいけい</sup>の生態系<sup>せいだいけい</sup>をこわしてしまい、<sup>とくていがいらいせいぶつ</sup>特定外来生物<sup>とくていがいらいせいぶつ</sup>でもあるんだよ。」



トノサマガエル